

全国支部長会議(台湾)

李前總統臨席の下に 初の全国支部長会議

事務局次長

富澤 とみさわ

賢公 けんこう



新竹の植樹式に参加

十支部、四十名が参加

当会設立以来初となる全国支部長会議が、李登輝前總統、黃崑虎・台湾李登輝之友会総会長ご臨席の下、十月二十日から二十三日にかけて、台湾・台北市の圓山大飯店を会場に開催された。小田村四郎会長ご夫妻や支部長、役員、本部事務局員及びオブザーバーとして李登輝学校日本校友会会員など、総勢四十名が参加した。

初日の十月二十日夕刻、邱碧玉・黄総会長夫人がプロデュースする台湾歌劇「台湾啊」を鑑賞。夫人自らも出演され、台湾の子供たちの正確でかわいらしく日本語で歌う日本の童謡から始まった瞬間に感動し、台湾人の苦悩と

希望を表現した内容に圧倒された。

葉菊蘭さんも参加して植樹式

翌二十一日の七時三十分、台湾李友会主催の植樹式参加のため新竹に向けてバスで出発。植樹式では、黄崑虎総会長、小田村会長、前高雄市長・葉菊蘭さんの挨拶に続き、御三方による植樹のセレモニーが行われた。

植樹式終了後は、新竹県北埔郷南坑郷にある謝森展・台湾日本研究学会名管理理事長が経営する「恵森自然休閒農場」へバスで移動、ここで夕食をご馳走になった。「水土一致」を理念とするこの農場の食材を使った夕食は、素朴な中にも心のこもった、他では決して味わえないものであった。

台湾政府への要望決議を採択

二十二日午前九時、いよいよ本番の全国支部長会議が圓山大飯店十階の松柏の間を会場に、片木裕一事務局次長の議長により開会。小田村会長の開会の挨拶に始まり、まず永山英樹事務局次長と早川友久事務局員による当会の活動報告、その後に各支部の活動報告が行われたが、会員数拡大の困難性や資金の問題等、悩みは共通していることを再認識する場ともなった。

昼食を挟み、午後二時より今後の活動方針を発表。「正名運動の経過と推進」に関して、外登証問題と地図表記問題について実際の住民票、地図、パスポートのコピー資料を参考に討議された。続いて「正名運動に関する台湾政府への要望決議案」について討議。伊藤榮三郎・新潟県支部名誉支部長の談話や各支部からの提案もあり、和氣藹々とした中にも真剣な討議を経て決議案を採択。その後、台湾と日本のメ

ディア数社が取材する中、記者会見を行って決議文を発表し、無事、第一回全国支部長会議は閉会となった。

李登輝前総統の講話と晩餐会

しばしの休息をはさみ、五時十分過ぎに李登輝前総統が入場、三十分間の講話をいただいた。

まず先般の訪日に際しての当会の協力、とりわけ東北各支部の歓迎に対して謝意を表明。続いて、国連加盟問題や台湾人意識について触れ、「来年度の立法委員と総統選挙の結果いかんによって台湾は十年前に戻る、危急存亡の危機」と訴えられた。また、日本における住民票表記問題について、支部長



真剣な討議をする初の全国支部長会議

会議の論点になったことは素晴らしい着眼点だと評された。さらに、台湾の国内問題である正名・制憲を柱とした社会の安全を「二極化」「格差」「高齢化」の観点から論評し、関連して十一月に台北で開催される群策会主催（日本側窓口は当会）の日台有識者による「格差是正と社会保障シンポジウム」への参加を求められた。

熱のこもった講話の後、校友会員の伊藤英樹氏、川村純彦・千葉県支部長の質疑にも丁寧に応答された。

その後、別室にて当会主催の答礼晩餐会が行われた。小田村会長や老台北こと蔡焜燦氏の挨拶に続き、いつも周到な段取りで奮闘される台湾李友会執



「千の風になって」を熱唱される李登輝前総統ご夫妻

行長の蔡淑美さんに当会から花束を贈呈、黄昭堂先生の軽妙な語り口での乾杯の音頭で開糧となった。

黄昆輝・台湾団結聯盟主席、李登輝学校でおなじみの黄天麟先生や張炎憲先生も参加する晩餐会も佳境に入ったところで、突然「千の風になって」の大合唱が始まった。李登輝先生や曾文惠夫人の歌声を聞けるのもこの会あつてのもの、貴重な一場面だった。三時間に及ぶ晩餐会も、黄総会長の挨拶で名残を惜しみつつもお開きとなった。

最終日の二十三日の午前中は自由行動。十二時三十分には圓山大飯店を後にしたが、黄昆虎総会長や蔡淑美さんも見送りに来られ、再開を約した。

今回の収穫はなんと言っても初めての全国支部長会議を台湾で開催したことである。今後、台湾側との信頼関係を継続させるためにも有意義な事業であったが、台湾側にとっても益するところ大だったようだ。訪問団員にとっても満足のいく会議であった。